

Z世代の就職観

先生に聞く 新卒者が求める企業とは



工学院大学(新宿区)
建築学部長

かほ お
笕 淳夫氏

工学院大学は1887年(明治20)に工手学校として設立、今年で創立135年の歴史を持つ。設立には建築家の辰野金吾も関わっている。これまで幾多の人材を輩出し、2011年に日本初の建築学部を開設した。建築学部は、まちづくり、建築、建築デザイン学科の3学科からなり、22年現在1400人を超える学部生が在籍している。門戸が広く、理系だけでなく文系でも受験可能な入試制度を導入し、幅広い分野の学生が入学するという。笕淳夫建築学部長に、就職事情と学生が求める企業について話を聞いた。

「工学院大学建築学部の学びの特徴は。」

「建築学部では建築学を工学の1分野として捉えるのではなく、芸術や社会の視点を踏まえた多彩な学問領域として捉えている。1、2年次に学部共通カリキュラムで建

ロールモデルとなる就職情報が必要

「工学院大学建築学部から学科選択をしてきた学生が、遠隔授業に伴い自身の興味や関心を突き詰める機会が増えたことで、入学時に希望した学科に対する思いが強くなっていると感じる」

「就職支援センターでは大学での学びを生かした就職を目指し、社会で活躍する卒業生のロールモデルを業界、企業研究ガイドランスで見せる工夫

を頼って就職先を決める、各企業のSNSを参考にするといったケースも見受けられる。有名企業や安定した職種を候補に入れながらも、入社後もチャレンジできる環境が整っている企業や、やりたい仕事に直結する業

「売り手市場で数多くの選択肢がある中、学生が思い描くキャリアにつながる企業が選ばれやすい。コロナ禍に学生時代を過ごしたことで、学生は他人の影響ではなく、大学入学時に自分が思い描いたキャリアイメージを自分で掘り下げ、深めている場合が多い。しばらくは、純粹に建築やまちづくりをやりたい学生が増える」と見込んでい

築学全般を幅広く学び、3年次に自分の希望や適正に合わせた学科を選べるのが特徴だ。コロナ禍で緊急事態宣言が発出された20年に入学した今年の3年生は、学科選択時に入学時と同じ学科を選ぶ傾向がある。これまで

「建築学部の就職内定率は約98%で、このうち第3希望までの企業への就職内定率は95%以上。一昔前よりも大手志向が強く、施工会社や設計会社、ハウスメーカー、公務員などの志望者が多いが、より専門的な設備や

「建築学部の就職内定率を個別相談を含めより積極的なセンターの利用を促していきたい。情報化社会の現在、学生は多様な情報を上手に取捨選択することが求められている。大手就職サイトから企業を選択する他、研究室の先輩など

種かを重視する傾向があるように思う。実際に働く社員の生の声は、自分の働きたいイメージがつかない。求人情報の案内など本学の就職支援センターへ声を掛けていただきたい」

「学生に選ばれる企業(多摩支局)八坂篤頼」